

減汗型外胚葉異形成症の患児に小児義歯を適用した1例

○佐伯 桂、森川和政、河野稔広*、塩野康裕、
牧 憲司
(九歯大・小児歯、九歯大・一補綴*)

【目的】

減汗型外胚葉異形成症は、減汗症、減毛症、無歯症を3主徴としている。

口腔内所見として、歯の形態異常や先天性欠如を伴っており、咀嚼困難等、さまざまな口腔機能に問題がみられる。そこで今回我々は、初診時年齢4歳6か月の患児について、咀嚼をはじめとする口腔機能の改善を目的として小児義歯を装着し、経過良好な1例を経験したので報告する。

【症例】

初診時年齢：4歳6か月 男児

主訴：咀嚼障害

現症

頭部および顔貌所見：頭髪は少なく、眉毛、睫毛はほとんど認められなかった。また、前額部が広く、口唇部は外側に翻転しており、鞍鼻の傾向がみられた。

口腔内所見：上下顎両側乳犬歯、上顎両側乳中切歯、上顎両側第二乳白歯が萌出していたが、歯冠形態はいずれも円錐歯化傾向にあった。

エックス線所見：乳歯は12歯が先天欠如していた。永久歯歯胚は5歯のみ認められた。

治療経過：数度のトレーニングの後、印象採得および咬合採得を行った。3週間後、小児義歯ならびに上下顎前歯部にTeCを装着した。小児義歯については装着後2日目より1日中装着できるようになった。3か月後および4か月後に前歯部のTeC破折が認められたので修理を行った。

【考察】

今後、義歯の再製作および前歯部の修復を行う予定であるが、長期間にわたる管理が必要であると考えられる。

子どものこころと身体を見守り支援する大規模データ収集とリスク予測モデル構築の試み

○西田佳世1)、近藤好夫1)、西俣はるか1)、今村圭吾1)、佐藤恭子1)、日高聖1)、釜崎陽子1)、西口美由季1)、星野倫範1)、齋藤幹2)、山崎要一3)、朝田芳信4)、八若保孝5)、苅部洋行6)、新谷誠康7)、早崎治明8)

- 1) 長大・院・小児歯、2) 東北大・院・小児歯、
- 3) 鹿大・院医歯・小児歯、
- 4) 鶴見大・歯・小児歯、
- 5) 北大・院・小児障害、
- 6) 日歯大・生歯・小児歯、
- 7) 東歯大・歯・小児歯、
- 8) 新潟大・院医歯・小児歯

【目的】

小児歯科の臨床現場では治療開始前に患者の背景情報を収集し、食事や生活の指導を行う「母親教室アンケート」が一般的に行われている。本研究ではこの患者の背景情報をもとに、新たな分析方法でこころと身体の成育支援に役立つ情報をアドバンスとして出力できるような成育支援アプリを利用し、そこからデータを持続的に収集、活用できるシステムの開発を目的とした。

【方法】

長崎大学および各共同研究者の大学における倫理審査終了後、各大学の診療室で用いられている母親教室のアンケートと歯式情報を収集した。収集にあたり、各大学内で連結可能匿名化処理を行ったものを長崎大学にて電子化し、集めたデータは産業技術総合研究所にてベイズ理論を用いたデータ分析を試みるとともに、同時にデータの入力をタブレット型端末で行えるアプリケーションを開発した。

【結果と考察】

タブレット端末上のデータ入力システムはほぼ完成し、現在テスト中である。データの解析も進行中である。データから導き出された情報を成育支援に役立つようにフィードバックする仕組みの構築が今後の課題であると考えられた。

【謝辞】

本研究は科学研究費 基盤研究 B (24390463)によって行われた。

会員外研究共同者 本村陽一(産総研)、
平田 創一郎(東京歯科大)